

会場	船橋市総合体育館	コート	A	B	2011/5/13
----	----------	-----	---	---	-----------

No.	A1	Team A				A2	Team B																			
		得点	1Q	2Q	3Q		得点	1Q	2Q	3Q																
1	市立船橋	77	26	13	14	24	9	9	9	17	44	成東	B1	市立柏	110	25	24	27	34	15	16	14	18	63	習志野	
2	千葉英和	116	27	29	31	29	20	9	16	23	68	千葉南	B2	茂原	95	19	26	14	36	28	27	19	14	88	千葉国際	
3	幕張総合	94	25	26	26	17	10	22	19	15	66	東京学館浦安	B3	県立八千代	94	30	20	25	19	15	20	15	28	78	県立銚子	
4	柏日体	100	38	27	19	16	15	15	11	29	70	習志野	B4	市立稲毛	53	8	14	10	21	31	29	25	20	105	市立柏	
5	千葉英和	112	38	18	29	27	7	19	19	12	57	県立茂原	B5	昭和学院	65	19	15	19	12	15	6	11	8	40	千経大附	
	両チームオールコートマンツーマンから始める。英和#4藤岡を中心に切れの良いスタートダッシュを決める。それに圧倒された茂原は、#7宮崎のドライブや#4のジャンプシュートなどで攻めるがなかなか決まらず、38-7で1Q終了。2Q、茂原は#7小椋の3Pが2本決まり徐々に調子を取り戻す。英和はメンバーを代えミドルシュートがあまり決まらなくなったが、ルーズボールや執拗なディフェンスからの速攻で得点を重ね、59-26で前半終了。3Q茂原はディフェンスをオールコートプレスに変える。しかし、英和にうまく崩されて守りきれず85-45で3Qを終わる。4Q英和#14寺田のジャンプシュートや#15山口の3Pなどで得点を重ねていくなか、茂原も残り1分半から速攻をよく出すようになるが英和の勢いを止めることができず、112-57で千葉英和がベスト4へと勝ち上がった。												両チームマンツーマンディフェンスからスタート。昭和#10田口のバスケットカウントや#7村山のリバウンドで得点を確実に重ねる。一方、経済も#4斎藤の1対1や速攻で得点。1Q19-15の4点差で終了する。しかし、2Qマンツーマンディフェンスに対し1対1、2対2で確実に攻める昭和に対しマンツーマンを攻めあぐむ経済、残り1秒で昭和#9余郷の3Pが決まり10点差で終了。後半もリズムをつかめない経済に対し、昭和は速攻、ゴール下オフェンスリバウンドなどでバランスよく得点を重ねていき、総合力の勝る昭和が65-47で勝利した。													
6	幕張総合	127	42	24	34	27	9	15	25	22	71	県立八千代	B6	市立船橋	94	27	24	24	19	19	16	20	24	79	東海大浦安	
	両チームともハーフコートマンツーマンで開始。八千代は持ち味の速さでゲームを展開しようとするが幕総の堅いディフェンスを崩すことができず、ディフェンスリバウンドを制した幕総は#11中村のカットインや#5宍倉のインサイドで確実に得点を重ね1Q42-9と序盤から主導権を握る。2Q八千代は2-3ゾーンでリズムをつかみアウトサイドシュートが当たりだが幕総も#4柳本を中心に応戦し66-24とリードを広げハーフタイム。3Qに入り八千代は#4安田や#13山田の3Pで得点しオールコートゾーンプレスを仕掛けるが、幕総は速いパス回しでこれを突破し、#6渡部の3Pなどで100-49とリードを広げる。4Q八千代の追い上げを振り切り127-71で幕張総合が大勝した。												開始直後から堅いディフェンスと高さを生かした市立船橋が加点。東海大浦安は#9鴻巣のフリースローで得点を取る。途中#5田代の連続得点チームファールペナルティによるフリースローで追い上げるが、27-19で1Qを終了。2Q東海大浦安は#5田代の連続得点で勢いに乗るかと思われたが、市立船橋は巧みにディフェンスを変えて対応。残り5分東海大浦安はタイムアウトを取るが勢いを変えられず51-35市立船橋リードで前半終了。後半東海大浦安は#5田代が連続得点で勢いに乗ると市立船橋は東海#5田代を激しくマーク。3Q終盤市立船橋は激しいディフェンスでミス誘い一気に突き放す。4Q#5田代を抑えられた東海大浦安は#6篠原の得点で粘るが追いつかず、94-79で市立船橋が勝利した。力と技とスピードがぶつかり合う、点差以上に見ごたえのある試合であった。													

会場	船橋市総合体育館				コート	C	D	2011/5/13
----	----------	--	--	--	-----	---	---	-----------

	試合番号	Team A					スコア	Team B																			
		チーム名	得点	1Q	2Q	3Q		4Q	OT	チーム名	得点	1Q	2Q	3Q	4Q	OT											
1	C1	我孫子	64	19	13	16	16	14	13	12	19	58	柏井	D1	幕張総合	84	31	12	25	16	14	19	26	13	83	千葉商業	
2	C2	昭学院	80	23	15	27	15	14	12	8	11	45	千葉敬愛	D2	千経大附	96	22	19	21	34	8	13	22	14	57	船橋二和	
3	C3	市立船橋	97	26	29	27	15	11	17	12	25	65	津田沼	D3	東海大浦安	88	24	28	20	16	6	11	24	18	59	匝瑳	
4	C4	拓大紅陵	98	23	13	20	21	15	21	12	89	県立千葉	D4	八千代松陰	76	11	22	22	21	14	15	17	21	OT	67	市立松戸	
5	C5	市立船橋	66	17	15	18	16	20	15	21	5	61	市立柏	D5	幕張総合	120	30	22	31	37	25	13	25	30	OT	93	我孫子
		両チームともマンツーマンでスタート。市船は#7田口を中心に攻め、市立柏は#4ヌイラを起点に#17渡辺のシュートで反撃。1Q17-20で市立柏リード。2Q市立船橋はディフェンスを3-2ゾーンに変化させられ、市立柏#7和田の1対1で加點、市船は#5照屋のシュートで食い下がり前半32-35市立船橋リード。3Q市立船橋は#4岩佐の思い切りの良いドライブインを連続で決め逆転。市立柏は徹底したインサイドプレイで再び逆転し50-56市立柏リード。4Q市立船橋は3-2ゾーンに変化、市立柏はこのゾーンを崩せず3分間ノーゴールで市立船橋は逆転。オフェンスは徹底したディレードオフェンスを展開し残り2秒ダメージ押しゴール下シュートを#5照屋が決め、66-61で見事な逆転勝利を手にした。											互いにマンツーマンでスタート。1Qから両チームとも速いランジションバスケットを展開。互いに点を取り合いハイスコアのゲームを展開し、幕張総合が30-25と5点差リードで終了する。2Qに入るとインサイドで徐々にペースをつかんだ幕張総合がじりじりと差を広げていく。特にオフェンスリバウンドで差が付き我孫子はリズムを作れない。自慢の速いオフェンス展開をすることができず3Pで何とか追いつけるのが精いっぱい。さらにフリースローも落ちて前半は幕張総合が14点リードで終了する。3Qに入っても幕張優位は変わらない。特にリバウンドで圧倒的な差が出てしまう。我孫子は3Pで繋ぐが幕張総合が残り3分間で11-0と怒涛の攻撃でリードを6点広げ優位に試合を進める。4Q我孫子はディフェンスのプレッシャーを強めるものの幕張は速い攻めで崩しリードを広げる。リバウンドを支配した幕張総合がベスト4へと駒を進めた。														
6	C6	柏日体	81	19	21	19	22	20	17	16	23	76	市立柏	D6	拓大紅陵	94	33	20	22	19	21	19	17	15	OT	72	八千代松陰
		立ち上がり柏日体は高さを生かしゾーンを組むが、市立柏の激しいディフェンスからの速攻と#11大崎らの3Pで流れをつかむ。2Q市立柏は外角シュートがよく決まり出し一時リードをする。すぐに柏日体はディフェンスをマンツーマンに変え#10王の活躍で逆転。柏日体が3点リードで前半終了。 後半市立柏はドライブと外角シュートで徐々にペースをつかんでいき4Qに逆転する。柏日体は要所で#10王がミドルシュートを確実に決め再逆転。最後は柏日体が落ちてゲームを締め、粘る市立柏を振り切った。											1Q、八千代松陰のゾーンディフェンスに対し、拓大紅陵は落ち着いて攻め10点リードで終わる。2Q、オフェンスのリズムを取り戻した八千代松陰に対し、拓大紅陵はファールトラブルに苦しむも10点のリードはつまらなかった。2Q拓大紅陵はハイポスト、ローポストをうまく攻め20点差をつける。4Q八千代松陰はゾーンプレスに切り替え追い上げを図るも点差は縮まることなく拓大紅陵が逃げ切って勝利を収めた。														